

家の名前

ヤースナー

みなさんは、ご近所の家をなんと呼んでいますか？

城間さんとか平良さんなど、姓を呼ぶ場合がほとんどでしょう。でも、同じ姓名が多い場合は区別して呼ぶのに大変ですよ。字呉屋のように、呉屋姓がほとんどの地域では、わかんなくなりそうです。

戦前の各村落では、各家に名前をつけて呼んでいます。これを「屋号（やごう）」といいます。

現在、その調査を各村落で行っていますが、屋号の付け方はいろいろあって、ほとんど面白い！

王府時代の役職の名前であったり、ワラビチー童名（子供の頃の名前）がそのまま屋号になったり、屋敷や住居のある地理や地勢によるもの（川カノ端、山下、石垣など）や、ウガシマ門中など一族内の系譜関係が示されているものなどがあります。たとえば一族の

本家から分家して屋号をつける場合、本家の屋号に東・西・前・後といった位置をしめすものや、次男・三男のように親族の関係を指すものをくつつけたりします。

ちよつと例をあげてみると、サンサエノリ三男東高門小という屋号の家は、二男十東十高門十小（ここでは本家「大家」に対する「小家」となりますが、高門という本家との関係がなんとなく想像できますよね。

集落によって屋号の種類や付け方は様々ですが、家に屋号がついているにもかかわらず、それとは別の呼び方をしたりします。それは何かというと、ガツパヤ（頭ののがった人）とかハナビラー（鼻が低い）といったあだ名なんです。また、あだ名がそのまま屋号になった例もあります。

屋号は、村落における社会的な名前ともいえます。ある村では、正月に開かれる村の常会の席で、新しく分家した人はお酒を持参し、新しい家の屋号を公表して

村の人々に認めてもらう習慣がありました。

また、屋号が現在の姓（明治期の戸籍編成の際、全戸に姓がつけられた）にそのまま引き継がれた例もあります。みなさんも、自分たちの家の屋号をご存知ですか？でも戦後は新しく屋号をつけることもなくなったので、ちよつと難しいかも。

そういえば、棚原のある祭りの席で、若い母親が屋号を使って自己紹介をしてみました。説明するのに四苦八苦していました。

ちなみに私の場合は、ヤマトフウ（父の実家の屋号）の三男の次女という具合になりますか。こういうふうに関係を紹介するのは、新鮮ですよ。



この家に屋号をつけるとしたら…？